風俗文選犬註解

序
列
傳

862
5
67
共
五

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67

ガラス使用

嘉永戊申年春三月

五雲井許先生遺稿
薩甘谷赤松滄洲藏書

風俗文選考註

全部十卷

肯綮編輯

帳隅保藏書

八六二一六六

立花井許六先生著

風俗文選犬註解 卷之壹

風俗文選之印
東京帝國大學圖書

江都

薩雲庵千心門人

薩甘谷律由述

月澤律師李由校

本朝文粹といふ我おのふみ文粹（スイ）を 本朝のひとの述作（のべこと）

儒文（じゅぶん）なる一ツ許六の文選を和（やわ）らげ文章すなほにして其俗

むつかしきやうやまと訓（よみ）おかしくもなく物かたりのやうに

本朝の文章と称（とな）すきものから今此風俗文選のごとく

教（おしえ）を定め讀（よみ）をふりそへ其格（かく）まで記（しる）しかくのごとく

古文に記する處を傳（つた）へ遠（とお）あしい漢文とてもよ

して和文ながら文字の数さえまちまちにして韻字なども
五音相亜の例をとりて韻あり皆和文も韻を
用るのようにおもうひ自由なる一句或は
まちまちを定めを学者知るべし
江東ノ僧 律師 事由序 貫華 於四梅廬亭

風俗文選は題号和漢に対して名つけしより風俗をみるによろむ
本朝とつづく同し文選ハ梁昭明太子のえらめる文選の題号は漢
をかりもひいうへの文章を和漢対揚まじきことをもて風俗文
選と題号を冠しめり
序をはしめよりむ条のことにあるべし
亀城ら金亀山竟根寺の地をて今井伊家の郷城則彦根の城なり
事の由許いと多くてよく此文選をえらめる事ハ事の由をまうしさるを
集中断結の文ありて二段のよみ添ひ
めるはよりちうを用ひし助け締ひとつ
潜窃うりと酒器の名をて酒をつきて
酒をうるとらふ心なり

本朝文粋ら藤原明衡ら作りて日本の歴史の詩文をあつめて十四巻
やまと詞 ものゝふの八十氏人の目の翔遠すめらの上代の歌を用ふる此道の本意なり
文章一覧ら文則ら斎類句用二類字一所以壮二文勢一廣中文義一也
設情有二筆置一言有二位置一筆病曰二章句一章積句成レ章積章成レ篇也意
也夫人之立言因レ字而生句積句
斷處曰レ章言斷處ノ句ト云
毛詩 正義ら聯字分レ疆所以レ局レ句也

風俗文選序

落柿舎去来

世の俳諧の文あつて其集といふものいまだ
侍らざりしかば先師一人おひとりの
つゐの誰ふ風雅ら腸をつくしまた管城の
毫をふるつて文場ら塵をはらふ
者すくなし今此文章ら谷を入て始ら栄つ
ま或ら書つり或ら論あり記賦のまことを述文謀の表を
残す自ら

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

文ありて年ごろの作をかうさんまことを千里の海よりも遠しといふの文章のうつくしきと
せハ彼童子の師乃ち讀を教ふる類ふるむやうに文を志ざす者も此選にて
者なり他者らつゝ五老先生と称するものゝ湖東森氏文選を意さうに
るくといふ〳〵ゝ今の名望を感〳〵ゝ

宝永元秋日序

此序文ら書未没するまで〳〵の作なる〳〵同年九月を書寄し
ふるゝ先師とある、色蓋義のるまで文選をつゝめる宝永よ
りら十ゝ年ある近化ありしなり先師自選の集の
去まゝの　山名裏やうもひとうり服乃序
此るら多く除童して笈小文集ゝ書入〳〵ゝとなり書田級小文集ゝ
先源自選の集なう者をはていまゝ其書をそゝ草稿ゝまゝて送
化ましくう此時やれるかゝる白〳〵ゝ入作るやゝ倒ふ先
此ゝ〳〵笈の小文集ゝ入白二白指
るゝ〳〵のゝ

管城筆の名ふり　今も〳〵の誰彼
をゝ元今ゝ傳ふり文藻の盛ふゝ行なまさねを深う
筆陳のちなみゝ
百川學海甲集上　譬齋先生佑筆ゝふ
傳記小説実ゝ出ふる多ゝ〳〵ゝ始ゝの
ふき皆此ゝまゝゝ蒙恬ら秦の時の人詩の中ゝ已ゝ胸算あり謂く女
史ゝのする和の筆史いゝく史ゝ筆ゝ載るゝ
は則筆〳〵割るゝまゝ則けふる筆ゝ摸離ゝ純す又尚書中僕ゝ玄龜負
圖周公筆ゝさゝけゝてもて時の文ゝ寄ゝ説文ゝ秦ゝ譜ゝ立筆ゝ楚ゝ譜ゝ立律
呉語ゝ半蒜譜ゝ并其来るゝ尚〳〵馬大年乃ゝ附會〳〵ゝもて管績乃
筆ゝ則ち〳〵ゝ并筆也毫〳〵あゝ〳〵ゝ崇悟ゝいゝりて始て兎毫ゝ用る
のゝ始ゝ筆ゝ紙ゝ墨ゝ和するものゝあり則毫ゝ以て書ゝ染ゝうの
ら外〳〵并筆豈給ふる為ゝんや此ゝ素ゝのゝあり筆ゝ崇悟ら
造ゝ湖さるゝ時ゝ流れ崑崙ゝ古今ゝ涯ゝ崇悟ゝ筆造ゝ枯ゝをもちて笈
ゝ〳〵紙毛ゝ柱ゝ〳〵筆毛ゝ深ゝ亦兎毛并管ゝ此さる時ハ則又豈

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

兎角崇佛ノ起ルトイフ処ヲヨク〳〵味ヒ玩ンヤウニ説文ヲ善ク筆トイフ一句ヲヨクヨク以テ後漢ノ時分ノ人ナラバ意ヲモ汲セヨアヤマラヌ之又蔡倫ノ如キ則後漢ノ時分ノ人ナラバ意ヲモ汲セヨアヤマラヌ之又蔡倫ノ如キ則紙ノ字ナラバ恐ラクハ未蔡倫ノ外戚傳ヨリ赫蹏トイフヲ引テ則小紙也

毎に於ひきるよ於ひてをめ給うあ〜せむとせいいて栄花物語といふ
ものと我いまことそうよく考〜に伊勢物語の言をおそふまきくそさく土
左日記もまさきなり日記をおのれのおもなれいく人のそそえもつるの
我もそをおとろんく記と紀もまた同一心をうく旅よ紀行とうふるよ〜あるまた世
に平家物語とつふものありてひとつよかのふ好事家ありて徒園
精舎の鐘の声よ諸行無常のあそひをよ源氏物語とつけくる名を物
に対せる者なく略の伺ふ方おの記よあそ〜
ものらさるうのよ〜おほくあるよや四季物語といくふ
あ〜けくそ撰集抄のくいとふく歌の心のきれくるく八まて撰者の
法師のあそ〜ふるよ〜兼好法師のつれ〜草もおろそもおろん
う硯よ向ひて物をさくめ多々世情の境国よあそくふ
紙の後馬の花よ或よ長庵の蓑白集よおのれくうむ
つくすくいふるものなく天うをもをて月よあそくふ
ふ竜吟すれ雲乱うふ嵐くふけ八作法一枝よ学ふ
つくけ〜あそいむ先師常よいつかう漢うそ之乎者也の四字をもて貴

賤尊卑の詞をもうち和よいまた遠波の四字をもて暑〜源一の冊宮をく
のふ文章をまもてをた遠波のるものとそされ八二百の多
讀をもうさんよるも者息のつぎ句をもすれ
つけ〜ふんはてうるき心やすふんせうそ
ふ中よ我うけ文選の時をもふそてをふものうくとう

宝永元年甲申睦月日

文選梁昭明太子の周蔡漢うう梁の代近ろ文を集て三十巻の
唐李善ゝ註よ五臣の注を加くて六十巻ろ
学なる集

源氏物語とて世まるてをやふんくろみよ行ふ
そくうひろけてそくふみふれる事すちのいなきやうまてさらよ
よみとうふ俗ふらいにとふさしれ兵列よのちくふんすてあいさ
るうもまひろそてくふをへていくさ日かけをまの
き来くふんくのちよ入てうやうのさそうそてものもの

あやめよろづ代をかねてくなんいと祝ひ調なこまうみ石わうてふ如くろく
分我ら此文論ないつるおく都ての文章いくなもろうしくよみん
ハおのつつ文意をあくへくるものも
き八意よりいよ深うて此文選て他者多くるを考しめんとて
此序より代てのきい草子物語三巻と三十巻と女部あり乖うう物かう
校訂ら大蔵三位他うつう物語三巻と三十巻と女部あり乖うう物かう
二巻のおちくう五巻枕草子十巻栄花物語十巻いせものかう
ふいるも物語とつみ土左日記二巻平家物語三十巻又三十巻の
ものみ長門本其外あまこの方お紀野長明の発心集四季よもの
かくう撰集抄九巻宗祇終焉記一巻て誉白集九巻
源氏物かう一部皆寓言ふいひうう下心よう世のくのきこみ
くるよめてのうるみを名をか一部をかく他るひものかうを天台う
四門より表し或ら不可説の物語ふいう

自序

五老井許六

文ら貫道の器也孔子も拿力あくハ気を学ふてといふ吾朝のむかしよう大和詞
の文筆庵ふくら車ふみそむさんと世おこふかくる歌よまんと
にて源氏物語ろくう男女の中をつくし實ら歌連歌の文法ふて詠詩文章の格式一言ふうし先師芭蕉翁始て
一格を立て気韻生動をあうハせうたくひ副言漢字ふてうるひ心ら芳
野龍田の花紅葉をうらやくし和歌の神ふ志をよの世、雑歌恋の細さよりあしを
かうるて縦横自在をつくしうるひくの類意をもるところなくくて
童部ろ老い物つくしよ論て景ら和哥を仕業ともなせる事ら古今のるふ
るて今ろあくら文章躰ら三十有余篇好ふく俳語文
章なう気をよみ出をうて此門ふ入つてそ考の五老井許ふ云撰集を
宝永二乙酉歳自序して風俗文選といふ尓

文ハ貫道の器也

古文後集　集曰樂記文

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

文者貫道之器也不深於斯道右至焉不也易繇文象
春秋書事詠歌礼易其偽皆深矣乎
さゝい女史の筆すさび　誹諧文章の格式一言もなく
我を許さるゝ此文選をいつる文法之学ある女
史なるべく歌の語をつゞりあつめてあそぶあだなん
てなどいふの文章をあつむる者多けれど
旦てなりの世のもてあそびぐ芭蕉翁没後十とせなるべん
ゝ其つくられしまゝあれバ道の盛ん行るゝを後世
までも旦を初心のくらよ文章をつくるべきたよりとも
あつめ置るものなり
文賛之道交轉〆無定
文聲婉轉而艶媚　質声淡薄蹉跎也
五老井の別墅ら中仙道高宮宿とる西村といふ
いわれるふ人ありさゝうら五老井とよふ井ありと旧記に
ある趣ら石榴叫のあるゝ柱ゝ井のそれ

を建られさ
崔豹古今註曰堯設誹謗之木今之華表也以横木交柱頭
古人亦施之於墓
白虎通云庶人無墳樹以揚柳古葬者松栢梓桐以識其墳
童蒙抄云山寺の南表ゝ志やくなけのみるをおくこれをもつ
のうやうにいとひの本となんやうにさゝとひの
うえとてゆふれ乃ゝとゝさゝとひの
者ゐ芭蕉翁の門人なりとやいふなり能因法師
むかしよう和歌のみち行ゝ定るなりしなり
爰東の長能を師とせしより歌道ふ
五常ふくゝるゝ和ゝ心かけるよふなるふなり長能
気韻生動　畫品有六法
一曰象顔生動　二曰骨力用筆　三曰應物象形
四曰隨類賦彩　五曰經営位置　六曰傳移摸寫
百人一首古説　か義ゝ例著

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

後の人源氏物語の文よなどひて序なくいにしへや物語などの詞の文なる序ら序の辨あり男ら男の文女ら女の文あり此物語女ふみなるものなるべし

抑我が序よいふもの多く源氏物語の文章の格言なりといふ序文章つくらんくらよく考へて序ら序の辨あり男ら男の文女ら女の文あり源氏もかくのごとくなるとも詞あるのいへる誠ら格言ある詞ありきなりといふいふもの文章あるまをらひとらを文章をつくるくきなりとうるせらるべし

大註解自序

風俗文選一名五先文庵ハさる高根の富士立売井許ら芭蕉翁の骨頂を伝ふるいみじおお大和魂もてあつ先ろへ新文章脉ら二十　文ら一百十余篇なる諧謔文章也百余年の今ら傳て誦通の文章ら表裏ありてすべてのものなるなり玉ちやいふもむこころおなむくろ

なくつくて真偽を考ふる程の文のうち高きをいやしきを古おふるさまの遠しむつまあちるハ天地のきいふるふ郡村里の名よいふ小ちるら人倫の上よりみるはちれ

嘉永紀元戊申三月　芭蕉庵桃青翁門人
寸雨亭夕我七世孫
佐保姓　葎日夕我

凡例

一此あけて云るハ本文と云る
註解の文と云るゝ〳〵
凡文章を作らんとおもふ者ハ先其通(ツウ)を語(ヨク)讀(トク)して其語を語記(アヤキ)し其文理を解(サト)して自然の筆をとりて文を屬(ツラ)んとおもふ心懸(ココロガケ)ある可(ベシ)
文を著(アラハ)すやうにすることに有(アル)ハ文といふ法(ホウ)なれバ體(タイ)ハ文をなす法(ホウ)なれバ體とハ體裁(タイサイ)なり

引書ハ万葉集より代々の歌集よりくり物語の歌謡諧の書よりてハ此文選と同じ時代の書をとりて是ハ同じ時代の人の文章をあつめて本文の意をきはめんとてなり又雑書といへるハさしてよき文よなどあるハ引用の書名をいへる元祿の昔よりいひ伝へてきたる諺なり友よう少傳へきたるハ其庵号姓名を忘せ者うて残していへるあくまで頴(ヒキテキ)敵(ヨハレ)我ハ瑯琊(ロウヤ)瑯琊(ロウヤ)瑯琊(ロウヤ)

俳名よむ俳返俳あり古俳より万葉集のころを返俳八定家卿
此歌所のふるとなるべしころをいふそのまゝ春の部芝莟
をはめ返俳の俤を見ひらかしなるべし文選も又返俳の俳名
つゝみなる事あるまゝふるく古俳の俳名をも支那も本文打書そのまゝ俳
名よおのれて八一らるゝ改めぬ原本のまゝとゝろゝて
跋ゝ汶村ゝ風俗文選俳名つゝひとゝつゝるはありそこゝ一部乃
俳名をひろ返俳古俳をらちらみて

風俗文選犬註解目錄

前編之部

巻之壹上

作者列傳

賦類

南都ノ賦　汶村　許六
吉野ノ賦　文艸
同下　李由
富士ノ賦　嵐蘭
前擘山ノ賦　支考

辭類

柴門ノ辭　芭蕉翁
示二秋之坊一辭　支考
送二新道心一辭　文章
錆刀ノ辭　去来
同下　許六
辭類　李由
嵐蘭
示古鏡辭
燒レ蚊辭
四季ノ辭

鎌倉ノ賦　許六
松島ノ賦　芭蕉翁
湖水ノ賦　李由
後丸山ノ賦　去来

賦類

去来　旅ノ賦
毛糸　四睡廬ノ賦
汶村　招魂ノ賦

譜類
支考　百鳥ノ譜
許六　百花ノ譜
李由
支考

目錄終

作者列傳

芭蕉翁者伊賀之人也武名ハ松尾甚七郎奉仕藤堂家壮年ノ時辭官遊武州江戸風雅為業號桃青乃誹諧正風躰中興ノ開祖也嘗為遷功修武小石川之水道四年成速捨功而入深川芭蕉庵出一助諸門人國中悉歸芭蕉風一ト遇難波津仗病終ニ卒ス年五十一葬ル江戸義仲寺

俗名服部忠右衛門新七忠右衛門ト改ム父松尾與左衛門母依加宇和野産物地氏ノ女ナリ實又ハ伊賀上野鉄砲鍛治松尾甚左衛門ナリトモ云フ

正保元甲申年生元禄七甲戌十月十二日於大坂卒ス春秋五十一翁ハ初メ貞門ニ學ヒ次ニ談林ニ遊ヒ江戸ニ着始テ小沢太郎兵衛ト云ヒシ頃ハ桃青ト云ヒ次ニ芭蕉ニ改ム又ハ泊船堂無名庵翁自筆ノ書ニ桃青ト署セリ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

き羽織をきらんとう

[illegible]元禄七年九月廿日[illegible]女亭[illegible]歌仙[illegible]巻興あり

かうそめのくちびるの素よそおひも十月許[illegible]

翁のよう七日迄のうふるふるく

八日本郎去年[illegible]今朝出勝を伺ひ[illegible]

又そて脈所もあり一句をつくるとて薬力[illegible]

ちとあんこおりふ去来卿よりの[illegible]

を虎の竜鮮を猫にとる天業をいむうせむ我かく悟道[illegible]

呼吸のかよひんちらいつ迄も本郎う神法を服[illegible]

まいりる風流な徳人なる百疋するなり[illegible]

りんき来心ひろく病床のきんをそくらひてやてう古来[illegible]

く大期よ辞世あうさいうの名匠の辞世をなうしやと世よつふうのもの

ナあうんこ百をおしぬ〳〵諸つ人のをみとうぬて仰曰きのふの発句

とう今日の辞世今るの殿句を望の辞世我生涯いひおほ〳〵句るとうく

辞世うくさるハすし我辞世をいふて写人あうふけるところのひおく

句いつれなうとう辞世なうとやなよりんし諸流従来常示寂滅相これ釈尊

の辞世うて二代の俳教ハ二百よう外をふし古池や蛙飛こむ水の音ハ句

よ我一風をおこしよう初うて辞世なう芭蕉百千の句を吐よ大意なう

するふうの表をふてうこ辞世するするふうとう俳諧実よ微妙の名人

りりと淫りよおとうひ息のかきう語のふけ語実よ微妙の名人

なうするとうふ一九日くの夜半ようて古き衣装之お奥なうの

垢つきくる不浄あるを脱うくよき衣よ召せうやう仰曰

永迎地獄湾のほとうよ草をその座の塊をおし

分のかるるとくしお待の上よおうも未来迎のすこの友とちにきしく鬼祿

よよりむる安生の本望也お草去来とう

まくふと薬一入て吾身よおもせとう名誉一ぬく

枯尾とめくる葛心とよ一休るいつれうくきこれう辞世あくる辞世

よあうするのあうふ病中の吟ふうしかるる生死の一大事をあよ

るうふいに生涯ハ一期須臾といひるうふいふくけ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67

ガラス使用

小さうきるとかやさるのかぶ帽子平生名
やうやくはき袴をうけとりて諸人こぞ
るをやもやてはんを学しめやるの奇怪なう
ふるつよく共座をとるのくと声あらくみよ次の客人迯ようまく考る牛
らんのいひおて諸よのまの面目をうしなひ我
つるあうことおきのくていひく
おくうさて次のろうのうと
さんうち考なうるい師匠おかのつてをかうのひろう
つく惟熟吟るい師匠お草うるを今一ぬとのうみのひてお草ひうさん
ろういつまでも寂志を調う西向りくとおいうんいつからきんのうるはおをよろこひりるまお弟子人熟をうくいる

辨よろんるい長角長故を守ふ末弟うを病よ傍中の証といつるみ大病中
絶食るるに依て食のすむるをあるを熟症なり死期をきるよあくのくいう
やくおるしおきるめきおるくにおかやうみ寒熱往来みて拉ぬれより
顔色土のごくろえのひおうくいかしおるひ人ものなさしうやうろそ
又実証なるのひたおうく舎羅香丹ろよ
み把く往うおおんかて十二るなう薬て宝うのひうの病のよのう
さるみさせ長角去年を笑てて向ひ
おくまふるとことはう行水をのうみのふ末節
のうみのふやむとことひ湯をひうせ
醫術をそうしるとつうる御
正秀をたおうち考雅然よまをとくも
の一病苦すもろろのうく奇異のおのひをなるう仔賀の遺書ハ
るつうろくめひみよ京江戸美濃屋張かれさるやうな遺言強なふ
よ好路ちる人の中そ筆託す吟書よ声るそう嘆嗚そなのやみのひ
りれい治すく多素湯にてをくるひ

のひさ元寛永阿哥(アニヲヽ)架よう路通うるを作あ甚右 油う太草乙刈あチ
返し消息有(アリ)霜(シモ)ハ文拾(ヒロ)ひ侯(ソロ)おし いくそうるとろて雪ヶ井の案而
ろうな仍ち秘う教年の苔水の学句めくりすれおう伏我亡婦のハおよそ
ろ子段なり以服流文りめくはるたのこうとひ
浴のひて余言ヶ谷雪山くく観音経ときこてかするふをを息のか
よりるをくなう申の刈るそ理史のあくおりのさむるめく治ふなって
きまるせくるよう加うて春入のひめをおうみるとう正念(ネン)うて浴う屬
續(ツヅ)よつおるひう干時元禄七甲戌十月十二日申ノ中刻当(ママ)五十一なう
即刻不浄を清め白木の長櫃よ納めまるも其おまよ川おうて伏
見近仏像(ブツ)奉う其人くくよハ真宗去来お草乙刈止奏お部惟然な
考之通呑舟法(ホフ)師(シ)ら(ママ)立(リフ)ハ行物を送る仏(ホトケ)
長櫃の面(オモテ)法花(ホケ)おうひくう差く念佛誦経おうひくう倶奏う拳ハ
常をるるれおるちりくと門(モン)るに信者の曲のうりめる称合
ろいさくて多うつおるるはうるき物(モノ)うて称(ショウ)るくこはうよつく
よう松(マツ)を導よかいそもるいそもくしそもるとうる十三日乙の時(トキ)うて

大ほの乙刈う宅(タク)ニ入奉(マツ)うう乙刈う伏見よう生(ママ)えて(ママ)いそき(ママ)ゆくさまを
掃除(ソウジ)し綺(キ)あ沐浴の用意(ヨウイ)ハ沐浴(モクヨク)う立(リフ)通呑舟法(ホフ)師(シ)ら(ママ)
させ申ハ時代(ジダイ)よ草法師(ホフシ)まおくれう(ママ)ハ法衣浄衣(ジョウエ)あら給(タマ)月(ツキ)と刈
書(シヨ)遺(イ)ちる法衣白衣(ビヤクエ)ニ着(キ)さ(ママ)せ(ママ)ふ(ママ)ハ(ママ)き(ママ)
茶毘(ダビ)の表(ヒヨウ)数(スウ)ニよろ(ママ)ふ(ママ)とまて茶毘(ダビ)を(ママ)
もうて浄衣(ジョウエ)ハ茶毘(ダビ)の服(フク)ニ(ママ)せ(ママ)ふ(ママ)る
うれ日(ヒ)浴(ヨク)よなうまう義仲寺(ギチウジ)乃真(マコト)ニ上人住職(ジユウシヨク)なれ遺(イ)命(メイ)ハ
三井寺常住院(ジヨウジユウイン)よ寺(テラ)ニ三人(サンニン)まう(ママ)ふ(ママ)讀(ドク)経(キヤウ)念佛(ネンブツ)あり(ママ)ハ葬(ソウ)
酉(トリ)の刻(コク)葬式(ソウシキ)よく十四日酉(トリ)の刻(コク)ニおさむ(ママ)ふ(ママ)ハ(ママ)
ハ雲(クモ)表(ヒヨウ)の如(ごと)く悲(カナシ)ひ(ママ)ふ(ママ)る人数(ニンズ)凡(オヨソ)三百人余(アマリ)ニ(ママ)ふ(ママ)る迎(ムカヒ)ハ(ママ)
男女近(チカ)ふ(ママ)ゐ(ママ)ニ(ママ)ゐ(ママ)む中(ナカ)ニ(ママ)ハ(ママ)る(ママ)ゐ(ママ)ハ(ママ)て遺命(ユイメイ)の通(トヲ)り木(キ)曽(ソ)の右(ミギ)の方(カタ)ハ堤(ツヽミ)
茶(チヤ)ニ(ママ)なう(ママ)う十五(ジユウゴ)日(ニチ)去来(キヨライ)其角(キカク)ハ(ママ)め(ママ)勝(マサ)ニ(ママ)ゐ(ママ)大津(オホツ)の人(ヒト)〻(ビト)ニ(ママ)ふ(ママ)く話(ハナ)て(ママ)ゐ(ママ)
ろ(ママ)て土(ツチ)かさ上(アゲ)て卵塔(ラントウ)をかくう(ママ)ふ(ママ)ゐ(ママ)ハ(ママ)ら(ママ)ゐ(ママ)の(ママ)ハ(ママ)ろ(ママ)ゐ(ママ)年(トシ)ふ(ママ)ろ(ママ)ろ(ママ)ゐ(ママ)柳(ヤナギ)あ(ママ)る(ママ)を
其(ソノ)まう(ママ)て(ママ)ゐ(ママ)ニ(ママ)ふ(ママ)の形見(カタミ)と(ママ)て(ママ)ハ(ママ)く(ママ)の芭蕉(バセヲ)を一(ヒト)ともに墓(ハカ)て(ママ)ゐ(ママ)ふ(ママ)ひ(ママ)る茶
の木(キ)の人(ヒト)〻(ビト)を墾(ハ)ふ(ママ)ろ花(ハナ)とたる(ママ)ふ(ママ)ろ(ママ)ハ(ママ)て(ママ)ハ(ママ)ゐ(ママ)ハ(ママ)て(ママ)ハ(ママ)ひ(ママ)ぬ(ママ)て(ママ)香(カウ)花(クワ)をな

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

和ある日のもと慶しといひても生ある甚名豊芦原の浪もひきさの徳
業蓬の絶頂る誠ふ人丸赤人のむかしらいさそ未代のそうてハ
實よ我翁ひとりそいふへき

翁えまゐ無へ返る遺状

此えき旅舘念よりそ急ぎ如何の病そ又急候哉と年
被寄ける心動よ此塵俗そ離るゝ事ハ
浪花高専老初そ残ける心ハ
まゐ有ん事ハ通てい、おゝ一カ翁ハ
十月十日

松尾まゐ無

杖者
立

市兵衛 雪芝ら 浪花無 苦藤ら 意専 簔雛ら
十月 半残ら まゐ 土芳ら
江都平田明照寺律師李由ら師よ傳てハ
翁ハそうけよ花見顔ら崖隔し

翁よ於ふ杜ふくそひそ友まそん
中ふるや声 鳴ら嵐の菜
秋まゐ翁ら本細や道 庵
ら翁ふ事のしそ小り

芝道まゐ哉ふ哉ふ俳諧のそら役
芭蕉を植る縁ある
そふ杜植てそんそうむ萩の二まゐ
六助そふ名の二人ふる残翁を
動そて右てのあ翁ふ
いく千里ふふ哉ふ秋のそれ

根雄よ對して 柳ふ作ふて
ふろくのそうて
伊勢ら亀あふ事 来そうな代の春
日の雨ふり 集さそう
於ものふ梨の接穂や山至しお

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

賀壮水

笠の傍ら柳絮る旅
古廟や花の旅おの捨ひ餞ト

相如寺

雪ちる咸陽城 弁乃梅こる
春風やきせるくくて和ひ香
古寺の梅干茶ものむ男こそ
留主といふ小僧ふるん乙梅
雪ちるや客もさそはで遠の茅狸派下
梅折て椿ら遠の多の寺
近水や椿流くく弁の裏
くれ迄き四つ餐ちるうや残菜餐

尚白と源氏物ふる
ふひとや柳ふる君ふる本棚一重
むくくに号や君戸の溪底

繋舟の画

夕日や畠てくちんも 翁 ちるも
行春や代ちら遠ちる西ふ秋人ト
七夕や雑机ろ 戯 旅
春日や碑脛ちる遠千塔
橙や伊勢の白子の庭さ
淋しちる新ふかけちきくれ
つくいて義経ひろ あ
花雲の四ふくちる
旅ちる二百十日も和なな
筍飯や妻をいやのまちるう
骨茶やかくくちるう 除の売
いく秋のちるくちる嬰ちるかくれろ
一足のそ花ちるも 川ふる

変ふうつせる祖義の自筆ハ碁布花見の記ちて雛を立南義の
俤ちるを枕青義のかちし巻ものく情ふふお活きかて傳ふ中
の文章廿六くくう登自サセ句をそ存せりけ油物ふ我ちる

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

号鷹山人示寂ス元禄十六年癸未十月九日

東花坊

浪化公後号記

今日神無月九日ハ物のかなしき日なるゆへ此君ハ別を此日をえらミ玉ふ
すゑ中略ある夜かいさめるる心の侭ともとゝひ雪ハよふ〳〵ふりてハすゝ
花そ吹ふきをかけめくる夜心の侭ともとゝひ雪ハよふ〳〵ふりてハすゝ
せむるすゝ〳〵と通のやつこともむまれきるハ雅行のつゝものつゝま
しくやさしき心のあつひも物さゝめのはせこゝろまものあるもの
うれとさるからやうなるいひなりぬるかと今のいきる三越の人のなみお
うて分の上ともはゝひねゝむそれをもとめ
日比居を出るら道ゟ斯文をあるひとゝ
まゝさゝむや十とせのむゝらかの雨し洛の東花坊ゝてかりもめの風
雅をむすひしより通の虚實をかくそろかゝらひおこゝろて風雅の
籟あけんとハ一生ゝ立ぬそこるる法師ゝそ越ふし
とをかゝゝそちもう我ゝ共朝のあやまりてかくへゝのは
の名詞をさく祖しの縁まてえそゝめゝさんさかとたゝひるきまく

浪化者東門生一如大僧正之連枝也號二窓真院一居ニ于越中井波瑞泉寺
一日遊二洛會芭蕉翁一效二風雅一後著二嚶海前後集一病歿年三十二

祖父ゟ雅父ゟ行ともに
の助とせう此巻物文化の始
古画ゟをゝ色ゟ費買して垂葉の助
の比買ゟめを他ゟ賣ゟ此ゟ六年のゟ
方ゟ買ゟめこう今雅ゟまのおゟひを
して今ゟ前時ゟう今我又家職をゟ
いゟ安ある時のゟうみゟ通ゟ志ゟ
通ゟるゟを言て共通ゟ導ゟくゟちて
ゟ遠つ祖今我ゟ通ゟ志ゟ志ゟつ
ゟ年ゟ正月の時の筆作ゟて見ゟ笹看板ゟいふ其ばの何人
の述はめゟとつゟるゟを未不考作ゟ則簿也往古作ゟ伐ゟ簿ゟ
なゟかゟゟゟあゟつゟ稼ゟ篇ゟせう笹看板則帳也

せちる世よおりしもハかくいきしにすて
遠く八好の外のゆをかの岸にそこの花のそこをふねろ
しまつよよ笑ようかりていひもいそれまえくもひのくれ
その花の面かけのくもくの酒ともくめくと
金文ち文様くやう

郭ち　立て　春のむれのるよ酒ト
声

さくつちと男くそなのふるこう
秋立や鷺の　涸もの
水るの明よりけ
亲笠ち昏ひ
芭蕉葛の覚ふ行脚もきくやや
秋立て甚ろとやう代甚くうの秋の縁
よ稲のまいやろ秋めくうの秋の縁
日のようちとて
月やはく郭の俄者

浪化

巻一上

のく海の声ろ
業細や隣て
一ゆをくるく
かくむくの婦ようく
稚麻やくようく

三月十二日義仲寺古翁の塚ま詣
阿弥や若のつ
二三日設谷の句
学るく細くむ学
朝毎くく行を
麻売をみお
極楽ちいつる月
時る雨のかくら
大そや隣のかく
白空法師ち山ま
豆数こそ希のら

付るみつゝ鬼もなきうそ　　白空

去来文通

さまつるもかうかけるる小ふるや　　寝化

浪化公逝去

うまかる法顔宝と　　廿きる達　　許六

享四十四

公羽の上足丈草法師

東籬随筆を清軒を空晴法師の法孫已講の上足説法

無双なる文珠の化身なり

去来ら丈草の誄ら人ゝきまの四日月ら学屋ら砂

禅師のようのひろと湘南の心秀うれそうもそれる

うえ源ゝゝけ人のむかをおりふ尾張ゆ

に住て男猛の名るみゝとう

今我ら丈草ら誹諧ら仰ぐう同諸ら

基角洛の史都よりう五雨亭ま四日の史達の上ら面をさし

ようこうの路ら内よ路を却

むけて吟會多ゝけ人をかる先師

よゝゝむる月を越ゝとのゝうきる

うらやむて云ふる性ゝみて学ふるをぬまる感ふて吟

しくるゝ誘ゝ常ら仕るまする

晋書曰阮籍字嗣宗屬文初不苦思率爾成章ヲ

元めんゝまのうら都乃むゝまる　　丈草

夕立ようはうるや弁乃曦

つゝて帆ようる袖や夕すゝみ

旅行

かゝひろまあゝ結白の笋外

風雲や時るゝくる比良表

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67

ガラス使用

○信手那者江列堅田產也居ニ于本福寺一釈名妙式上人嘗テ任ニ律師一號ニ蕉門之高第也

享保八癸卯年　七十三歳

まくのお月うの新や梅柳　千那

海こゑの雲むす頃か生ル麦

水とるみう徳ニもなるて

おるひるのを吹ふく雉ふの声

如月やあらおもしろと押やうと

雲なのかすみうやうの鴈

人を吐息をするこんそうの

酒債となむしろ

新迄ふ岩梨あるふ猿の皮

○僧季由字ハ買年近列ニ近産也居ニ于光明遍照寺一釈名亮陽上人嘗テ任ニ律師一入ニ蕉門一而学ニ風雅一年久故ニ韻塞篇突

宇陀法師之著ヲ著ス病死ス年四十五

宝永十乙酉六月廿日卒　号ニ孟耶観　四梅ト云

常称ふそつまそ花ふ

ふ義や他ふ

屋ふ墓つく

ふの書ふ

法隆ふの寺ニ

法橋のそつもな

いつ迄ふ雪ふ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67

ガラス使用

ありそうなる画像唇をそろへ西皮口文の聖ひらく春こ消く雲
たなびくのら行と籔そ〳〵誰を推とせんそ

元禄辛未十月宿明照寺

当寺は平田の地をうつされてより已こ百年ほのぶるやに堂奉加の
辞曰竹樹窓こ主石老そう磯こ本立のものうるを討勝よおねがして
百年のけーきと食めや大根引
仲冬猪もるて銀杏や物のつくと
小ふあ気こ会者きこるつもや一めん後の柿田の
宇高やや大を簸方のまの響り
大仮しを鍋童ひくのみそうり
を今ものいつてあるおの雲
ゆうみそうんするあごろ守
宇高やりするねのあしり
よ神やいろうこつる蕎
樹

ゆく春こきのふの
春迫さ三ケ寺
寺町や向ひ
やふ入や歌な
下前のけーき
ひいとの響を
夏さものひと
離るのつきも
五笠着よはるや一季者
ゆきるや佛名乃夢情声
ゆく夏よ蛇や大仏
部をかぜ川の水 山法師
簀いとも蒸籠
苗場を休も
おふをそつ
やきとのめ
不学のあ

暑こ郁

おもてかくいやしげなれども母うなゐひるはなれ
紅の支度もせいきるよや笠よ小袖迄宝ぞと
きを大望をつふ鶯見の美濃守の建立まで玉浦一流の本山也
十一庵 伊勢の山田よあり庵十一日よ普請出来て十一庵といへる
支考は年僧ら時明迄吉得るの江湖よあり庵他事まうる
吟ふ流川七世孫庵よいふて誹諧を学ふ其角嵐雪杉風ふふるの
来ずなう俳諧十論ふあるふ武江の芭蕉庵よて梁誌禅と
いふ鍋をあみて吾翁の行状をあらわし我翁の風雅をひめんと
昔右波女子供養一庵主経二十年ナ常珍二人ノ二八女子迄飯
給侍一日令二女子一抱定曰正仕心麻ふ支之時如何主曰枯木倚二
寡岩一三冬無二暖気一女子拳似波女一婆曰我二十年祇二供養一
得簡俗漢一追出焼二即庵一茶話禅ふ梁ばふとふる
ふ考盧言談ふ死阿誰話ふ追善集ひるふ考年門
人蓮二あふといふるふなり

やうおもふら

ふるふ長刀ふのふるふ
庵の声おもふうと何る里
ふ吟ず春ふいふ書ふうれ
ふや未のふふ雪の降なの
ふの梁ふ笠ふ雪ふ積の野
世の中ふふふの敷やふ衣
宿矢ふおのくすふ帆かけ舟
ふふ公の花うちふ経筒の事
投堅ふ誠ふくふ雪の糸
ふ迫ふ寿ふ雪
四封却る扉下のはやふさふ
すしさや風ふむやみの時ふひ
藁ふおもふいちに引
四十の春ふふ花の春
巣ぬのふ歌ねふくふに花の春
さふふふふふ院の経屋うの
待ふ脇のふふふふふふ
恵山ふ奉ふ
せてあどふ

長刀の五條もよ[illegible]　橋の月

[illegible]

名山や雲井そ[illegible]　橋氏なかうやうにくるよ[illegible]

神路や伊勢の山[illegible]

十四年こゝら六十の老[illegible]

をよさきさくら内外のおん祓をさゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

烏[illegible]護[illegible]増賀夜一

[illegible]

象一的　鏡よ[illegible]

花[illegible]感[illegible]西行時[illegible]

[illegible]

[illegible]

晋共角者武州江戸産也生テ醫家ニ不学ニ醫術ニ終ニ業ヲ儛諧ノ
實井氏號ス狂而堂蕉門之一人而後ニ起ニ已ニ一風ニ著ス誹書數篇ヲ
姓擾李氏毋方の姓よる竹下東頌うまた初名源助くらし時八神
田おまた池よまあり宝暦癸未ニ歳ニ病ニ罹テ栄茆う硯よ鑓ス(ヤリ)するのみなり
晋子螺舎 雷柱子 筒川 右竹居 狂雷堂 狂而堂 六病庵
善哉庵 宝永四年 丁亥 二月廿九日 卒
麹拍子 晋子 終焉 馬乱

まよ白鯨よまをと行漫の凡よあるひら酔中よ月をとうて豪放う
氣を缺くものなりやや晋子の病根あを誹情よ富て私さあ
らい事を吐願(ネガヒ)とき人よ贈賀(クハレヤ)するあせて一月
三十日はうくるもうの泉よ頂る倦情よる五のくなのうちの品
まうくよ誹灯の光とうしかくよ多曳逢のちかみをなでび月
廿三日宝暦癸よ際をいくよ
春暁 宋妙空の唫とうく
ううの暁 ふ 呉竜

覚の池庵 翠むすふ 信 青流
万草よ晋請のり淀かやらん
沸黄 ふうふの白ひかくぬく
月も行ぬひうう梅 ふうつなし 竜
雨のおけくる留の番よる 流
屋の通 大 ふうみう立 やうて 竜
湘 まる 刺ちうくう 流
吟なう今思ひあ、すれ春鳥よかの水 別 ふあふ丸条 竜
の九条の水雑よ多ふうのひ水中の天の一句古今等節の熱うの
ふく屋栗論月の光さうよ石よの笑をあもひおまよるふ
なう
ふらうくと本ちもさうび 青竜
芋のふう食をうむ流ふ

○嵐雪者服部氏不知何許人業風雅遊武江芦門之高弟也後別棲出家ス

雪中庵玄峯居士　雪中庵の号ら他よりおくれ名を雪のふもとの苞蕉いつそやるかたちとつゝかもあらう宝永四年丁亥十月十音辛歳五十四　駒迎常験寺に葬

三夕の内定家

秋あはれ　嵐雪

杉風ら　里ら　翁する

そ毎をそろそろる

五月音ゝ我ものむしやや母ゑ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67

ガラス使用

我庵や　すゝめ　青鬼灯
園丁　其一
ありがたう　くろひめ瓜の　門
芳雪　きく　其外
辞世
一筋の　吐一　ほの上

○野坡、越之前列人生、高家ニ居スニ于武江戸ニ蕉門之学者也一遊ニ
西海ニ不定ニ其居所ヲ一隨テ師得リ歩ヲ一庵ヲ
はじめ江戸ニ於ひのち浪花ニ住ル梅木社と号す老後先師ノ
去給ふ庵を高徳みよう〳〵ともとめ
年月をおくる蕉門の徒之附合の件を御てうらやんで
まとゝゝハろうとなり

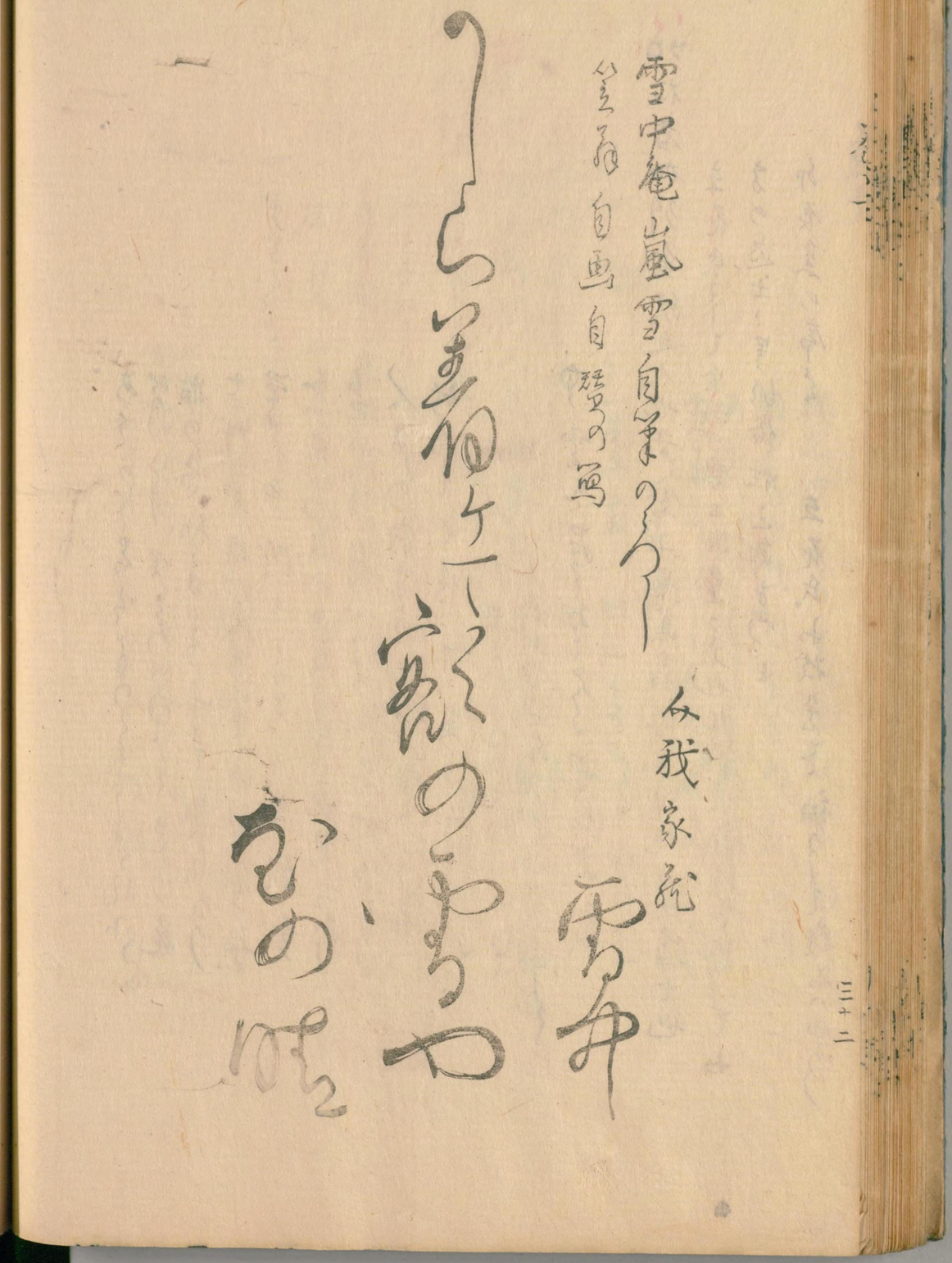
その葉うらの音かすや朝鳥
かんのことしの春あらうる春
陸くのからみおのくよ
あらたまる顔のいさめ格ふこと

あるこのに春ともの
ろうそく　咲そろう
猫の恋　初もどろ
七ツ半　や雑ひろう
雪や　門ろう
傘近あるみの白なる
垂の月　捨てこと
人声のおまをとる
我もそや屠ふ
あるく人の列　墨よ
おかるゝ　長々つゝ
申雪を　春あそる

○北枝者加州金沢之人也業磨工兒蕉翁羽好「風雅」北方之逸士也
立花氏、すて金城の磨工牧童うまれ
方の逸士ニ学ひ俗姓ニ郎左衛門ふ
和辰集の序ニ
立花氏お枝を袖うて好ニ志ハ雪の

雪中庵山風雪自筆のうつし

公孫自画自賛の写



八徳乃巻

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

○涼覚者歎列山田、神職人也葉風雅一初號園友
号神風舘薫門ヨ遊ンヲ乙由ト云ヲ等ヒ

源覚

露川者伊賀之人也生テ(二)高家(一)居于尾名古屋(一)好蕉門之風雅

男世等のひ
あのくも四る
更降る日ら
ひ脇ゝや玉
ふ
の指ゝの

学や葉を
中略
生来町のた
正月もまく
ひとうおやせ
名吟を稽る
五葉迚もる
ゆゝ上
柿色むる
栗ぬゝや
也拍子や
こゝろ

くさかくめ花や咲る日
学をなけと和ら乃ら別をこの水
翁むる推してそ
花よ春ていろるるを
時るぬやもつに昔の蓑
る考識別
尺迷ん花る
芭蕉ねはめ
果そそるくてる本の椹こる

小春る前のくとくるむ

名

○雲鈴者奥列南部之人産武壮年入道自號摩詰庵婆旦入風雅師東花坊一渡佐渡島著入日記

雲鈴法師行状記

其傳よるん雲嶺法師ハ鈴の一まを改
おなじ奥の侍部らりる宮るの塵よ世をいとい松ら武陸の

雷荘る風をる人中ら湖東の五老井る社をむすふ侶るもあるん
侶るのあるん酒をるのみて色をぬるざるい較沢の隠者よ例ふれと
る年ろくる西るるおい彼歌中の論仙よやと甚こるの人をたえふ
北斎ね中器亭保のはじめつる越後の坐雪崎よ草庵をむすひ
うす白の老を養ふきに高田遠江の風雅をあるん神崎よさ
まのひ新潟よおひる氣力もまくく人よるるん酒よ世界をん
やうて果ろうのるくひを重て世をはさけるろとお田
らんてこのきるくきるくをかるらひ
のの旦よ繋ろうあひ根やうの物をさくせて二月廿
つき城あろと倒の我ものく人るる後て改てりみるくことをめてなん
我ら今ん樓よへて一生の親法をとふ而我息のるんなん
のらるもかるるひめろんいひ
○緒世

お代をあの世
さんと一坐のくくハそろからるるやの
えあくハおのれも臨ろうろうてくく臭する人くもあるくく
人るありら年の時半る息るをさめけて酔つるをなを

らよりて移るあるくくて
は辞世よ哉ありて
山代よゆくや浮土の
東日記こゝ
水汲や雲鉢法師茶挽ら除風と是てや
ゝら高雪青橘の二老人ある
ゝら高堂ともあゝ飛ゝあゝ
日日記よき考ら高めるさ
雲鉢よけ世等をりくて鉢もやき
薬鍋おくまよとるやきりくる
雲鉢城治よ
ゝあゝ焼て行人ありや春の樽
吾仲者陰陽ノ人也居ニ于六條一業ニ佛画一好
園著ニ柿表紙三巻一
馬戈人 百阿佛

文操 柳後園益
柳の雨のおゝものゝて
花のさくらも花のあるも
七夕姫和讃三首
星の別ひも天の門よ世をかうもめの笑
姫ゝら名つけう 星のやうの花やう
且つくう多も他なれいたきるみ姫ゝ八名つけう
一星の秋の袖をく涙ゝろきる ゝ義の
ねらけや ちきる 寄
六像の空 蜂の汐法や おの雪
ねゝけを 嗅 出さ
五月雨や ゆうて
ある智恵のあるて
路通者不知何許人不詳其姓名一云蕉翁ノ門ニ聴風雅其
性不實輕薄而長ク遠ニ師命一飄泊之中著ニ俳諧之書一

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

平のさ乃乃カを離よ
法掃舎
吟ぬ豆拂ふ知も本部屋も冬籠り
吟つゝ鮒煮つゝあるじを
大事をおくりて年の歌の形
れも遊
西東
かけろ〳〵法
諫

○三条堂者山口氏也居于武陽避世路隠而保ル友蕉翁善ヲ
今日庵始信章又来雪享保二申八月十九日卒七十五
山口氏江戸の産也幸吟の門よ拾ひ
あるを許して深川の別荘よ蓮池をうりぬ友を集て晋の恵
遠う蓮社よ擬せしより誹家ニ共一人と往申と侍るとかよ
其伝集巳九月十三日於園中十三唱

其一　今年やゝ秋の月心よりも入ル夕べ雲雀のさへづり
遠山もとりの園よ動きなく先の日の恨もそれ

富士颪波二枚の月を一枚
其二　寄菊
夏のくしや二枚の月菊
其三　寄茶
江を隔て唐茶よ月の湯夜ル
其四
音もなしかや二枚の月
其五　寄蕎麦
そゝく我らはこゝよりよるよりみの
月九ろあゝの蕎麦よ花ひらく
其六　畑中よ霜を待氏あり詩よ筆を立て
ゑ紙よおりふしかく月こんの神
其七　同隠相求ふ心を
むくのある新ゑるし日を我
其八　寄芝
芝顔ゑら〳〵ゑゝぬ日のうこゝろ
其九　寄蘿
遠くとも月よ遠かをみ色のせる

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

其十一水一月千水千月とあらはせる
我ゟひとつのはを聞
袖よつまに秋うら哀
其十一答
月ひとつ柳一葉秋の
其十二寄芭蕉翁
きくらひら彼庵よ月を
一の宿あるじあるじもさらなり
病もさくさめるを伴ひけ
そ庵をのかれ杯をはこ
をつくて隠のおりひ出よせんそう
ひ多ら月よ肥てや
其十三　園より傳る
我をつゝみて多勢かな

樂器画　探雪筆

花太敷

青海や玄鶴ゟみそ春の声

山風蘭者不知何許人松倉氏業武奉仕板倉家奉諫遠辞官
雅ゟ毎隠ニ于武蔵草蕉門之老ゟ也為月遊ニ于鎌倉ニ病死
俗姓松倉又五郎江戸谷中臨松寺ゟ墓あり

中琴
琴や
古笠
けしきの相の
琴の塵
其角
共角

道潅や花ゟ芸代を
初市や雪ゟ積ゟ
水ゟ月やゝくいかめ
素堂ゟ蓮池迎
白雨や蓮一枚の捨あるさま
笠ゟうる滴ゟ仏ざる末　檀ゟ
更衣ゟうよ堂のこけよりゟ
二十日の扇をおゟ
寒ゟやあるゟ寒ゟ
寒ゟ附

○荊口者濃州大垣之武士也宮崎氏蕉門故老之士也此節
千川文鳥三士之父也後致仕改二名東宇一

翌といふ花見の客のくるまや
ものくるゝ葉ごもやとおの〳〵
古郷へるい杉あるよせて

郭公まね杉のあるよせて
梨行を人目をうらみ朴そ
知ゆめ花見のつゝやするものそう
青柳のいと〳〵縒うの都
炭をさむ音さへ水るゝ春辛うみ
くひもよ笑へやわるゝ花見の都
塔ふよあん〳〵
盃額よ雲のそすや
沼沢をうなきそう

○去来者肥前之産也後二隨一兄居一于洛陽一向井氏也中藥蕉
門之高弟也號二落柿舎一隨一師選一猿簑一後二病死一享年五十三

向井去勝老人の
長者町ますあり後よ嵯峨の落柿舎ふ

牛のよろ角や後ろんとす
梅咲やまゝひをむ〳〵の
柿の葉や誉〳〵からのあし俤
白雨乃青葉うう〳〵の
多〳〵ふ麦のやうかつる
代土のうくるまゝ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

及もいまだ吟老人よう云ゆえ此雅傳素と雅物に出ひ
根元去者法印より紹巴より傳受貞徳季吟元師と傳うけ如
斯と重器よひ候と云ゆえ一代尊常と此門と重器と秉ひ近ひ去るに先年猿蓑撰成就仕時分
砌涼門人より取まとめ相成共節と義仲寺より動ひ元ゆえも
此門人と申ひ傳うけ候ひ心もつてうち傳うけ候ひ
うち花枝葉俗うたひ会笑著なさんひひ
禅中風雲と行状ひ候を傳不傳とかて八ツ事と此節ひ
にて八御不申ひ此節ひ候ひ并拾ひ候ひ一通立不申ひ候ひ芭蕉門
埋ひうまなひ幸ひ此節其角まうち花
うちて八左右ひ候ひ思うひ安二のひ老ひ夫故ひ雲雨うて
右文墓讓うまや閑ひ候を其角讓うて旅延まうつう
中ひ許ひ物多本命を老衰美濃尾張八遠行うても留不申外
ひ八ツ事と者斗故一先右文墓を義仲寺真愚上人預ケ置一
二年ひうひ八ツ事の者ハ扶群と考ひ出来可申上人ニ申つ

うち路傍と焼寺風史ひ又ハ残雑を為ひ候
申ひ候ニ八ツ候今ひて八ツ預ケ置ひうち
ひうち意角ニ入節ひ為ひ候上ひ右ひ雑物ひひうち
うち来春ひ我ひひて持者ひ手ひ趣候うて
持せ遣ひ諸事ひ貴答ひうち以上

十月九日

杉尾まち殿

貴翰拝読先ひ以ひうち安後ひひ而斗東
統ひ為頭ひ文墓ひうち仰きけられ逐一承知
うひ八日ひ亡骸ひうち棄ひうち到る大切うち雑物ひ
譲うひひ心配ひうち而ハ花ひ方ひ奉存ひ左うち
合点ひひ辞退ひ我ひうち不承知ひ存ひ
ひうち八日ひ仏語好ひ者不存者ハ多
遠者ひひ人ひうち而ハ右ひ様ひ
ひうち左ひ而ひ第ひひ而又真愚上人

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○夢為者加州大聖寺武士也河地氏蕉門之英士也病死

○木導者江州亀城之武士也直江氏自號阿山人蕉門之英士也

師翁羽紱ニ高異逸物ト

春風や書の中ゟ水の音　木導

山吹の五吉姉川やと屈しつゝ発秀句ゝ

姉川ゟ名つむ義まつの卿

あるまゝの月を見ん窓の竹　夢為

洩すゝる角力の声の押画よおくや水仙花

ふるくゟの戸の干鮭よくくさうくゝ　発句

冬ごもり勅の筒のかうこう事

その日杉を洗ふあらゝ汁

殿ばらさまの音乃言この事

晩八ゟ何と叩くゝ　発句

やゝ入の春のゝうゝ霧の巻

掃うまをくゝ柳の格子の卿

まゝすゝゟ矣物をゟくる故郷ゟ

大仲のゟうゝ門ゟくゝや　己楊

三味せんの音ゟゝ朝桜のもけり汁

花芥子如ゟ多力の腰の脇ゟ牡丹汁

禅門の隙ゟ敷物ゟゝる花の声

ゟゝまのゟうゝ顔や菊の花

月代ゟまつゝ庵ゟ明

月雫の声ゟゝ秋の格子の卿

きゝ梯の音ゟゝ

ひさゝゟに

やゝ明ゟゝ

十二羽の声の中ゟゝる　発句

本尊の名あて当ル事のごとく
まゝあり 花見の事たとふるに
指おのづから 雑 夢のごとくや 神楽
る 伝えのあいさつや 初橋

○汶村者江州亀城之武士也 松井氏 名八師曼號九花亭ト
蔦門之達士也 嘗テ能書画繪ヘ師ト五老井ヲ

二ノ月の雨のごとく柳ごしの 汶村
振ふるやこの大師のごとく日
秋はよく吹すさぶごとくの日
附雨まるで
ごとくのかごとく
昔代をそ あてる
絲の窓やうに入
女のこゝ日のはや 春
そうそうこゝろ

許六

○毛綱者江陽慶城之武士也 北山氏号大雅堂好風雅一変二画
圖一師ト五老井ヲ

雞水の思を送るや 落葉橋
尺蕎麦 賢 ゆふべのごとく

許六

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

近江亀城之武士朝倉氏号白日堂愛蕉門之風雅

振り通をつけくる蒸暑
滝つぼを映して、そゝる小野の雨
傾城よくつれくる裕、この郭
悼哉や土用の中の盆供哉
湛壁や行ゝとくのうて秋の風
所病する八專中や狼の死

朱廻者江陽彦城之武士也寺島氏号甘露菴年久ク好
而入蕉門一派死ス年四十二

一ふきり やうく秋の
堺うらの 相の
雲を移りく定 時
鳧かみのいちよ
著おそ 発を
投あしよ 打
石休もまるよ

あゝ雪も共に頭ゆ
井のつや 仏
山々の奥すゝ

撰者許六者江州亀城之武士也名ハ百仲字ハ羽官森川
氏号二五老井一別号蘿阿伟一見ニ芭蕉翁一得ニ正風躰實一而
豚道統之門人也常ニ支ニ李由一撰ニ俳書數篇一

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

百仲俗姓土助　初金平又兵助　三百石を領す
正徳　乙未　八月廿六日卒　系譜　業戸辞ㇾ職
法名　立老井無道無居士　菊阿佛
癩瘡を病みて　終焉之偈

一時に打破す屎糞、壺芳芳自臭　臭供抛天

下くる年死のするとおのひとよとてつるみつけみく

立老井百年忌高根の郷土亮川と

文化十一年集冊すゝ　其序の文よつふ

百年の後人と傳らく九郷諸乃諸

へ〳〵文章を百代乃而庇ともまる

いとうまして鉄心石肝の筋をひるかへし

に学を積ん説ん為職務往来問答を

一めのひらるゝ而ん百年の忌ん向を

を筆かんと其遺跡を高のつるくかく

〳〵東西南　わう傳ひまる諸好

士をさそふ〳〵　跡のものつる

あまる粒ひとなり〳〵懐旧の瞳を干

さゝ彼酸吸の三翁を阿の芳ようのそ

ろそのまるつ〳〵比ら文化十一戌る卯

てつく万年よとまるまるを初り不知

さ栗ら丘の笹根角〳〵んまるまを指て〳〵趣をなて井ゝゝゝ

となつくるものゝ

元川述

菊阿全集　其外諸ゝゆくる白ゝを集ゝゝゝ

真白ゝかゝらの花やと一男

春ゝを和遠来ゝゝゝる神矢根　許六

餅くらの喉の慶ゝ

四方うゝ打ゝまゝゝゝ代の春

水上乃滝つよのゝゝ今朝の春

元朝やゝゝゝゝ橋そ名

脇ゝゝを投ゝ白ゝゝ何ゝ紋

根の雲よこゝゝゝ雑者たゝゝ

元日や椀倉角ゝ　今ゝ日

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用

四ゐぐらまうこ寺ゐのくるし年 雪
つくの醤つかも伊勢のはいやしまん源内侍の
老も業式部も紙もうちも我こそ女のまをそなれ
こゝろとつゝ春をとて
源氏よゝ御ゐるを兎ゐ
二条の河ゐを誰くる
高砂よひくさこ
播州の網ゐ荷て
雪ゐやゐ茶ゐ
墨ゐうの年玉きし
若竹や新精進
摺子木ゐ次まゐ
買立乃足駄ゐうけ
ひけくる室園の止
雪ゐ笠をおてこん
第人やみをみ
三毛十三年追善
節小袖十三年の
春ゐや湯女のまをこゐ

若おゐて春ゐ
くゐくゐと猫のよ
勘書も三日蓉
三井ちや倶会ゐ
春ゐまをや多紀ゐ
観能寺ゐ景ゐ
一村ゐ仲光ゐ
雪ゐ母のお茶
根ゐ都ゐ枝の梅
お豆ゐ干大根
社ゐ色や
梅ゐ香ゐ碁ゐ
梅ゐゐう濃
花萬屋旧
ゐ宿ゐむかし
化粧ゐる鏡の中
池の坊都ゐ
西風ゐ東近ゐ

蔵ゐ蓼
梅ゐ花
花
梅ゐ花
花
梅ゐ花
梅の色ゐ
梅の花
梅ゐ色ゐ
梅ゐ花
梅ゐ花
梅ゐ花
梅ゐ花
梅ゐ花

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

菜の花や
月は東に
八ツ橋や
住吉春納

日おもかげ
陽炎や
かげろふの
陽炎や
おもふ人
田つくり
よき衣や

紀行

鮫鮹の
うらやまし
栄の花や
君もあれ
草庵

めぐりいろ〳〵春のうつりきて柳
鯨のごとく鯨
うす雪のうへに人影
雪の中に鶯
くらがりや時
菅立の目て
白魚や
そつ手や
斗て
木佛や
涅槃や
四角
さゝら
町中や
てるや
冥加
白河の
ひとつ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

いろ見つくしあけくる雛やらの花
ゆくとし二階の雛やらの花
好まさき娘の雛やら　雛節句
あらかり〳〵筥のもち合やら女雛
　　盃遠うやらん
色見ぬいろる孫やら　女雛
乳母いろ今日もきやら雛やら
　　淡路島汐干くんの旅やら女雛
出雲や給仕ありくんを三日の月
出代やいさうひろ
おかいろやら系吹約束の石清水
出代やるの御うつやら乳の人
出代や静〳〵やくむさ坊
出雲やけ亭の好きの野掛哉
出かいろやら宮めぐりはのそ出哉

こやろやら出雲う時の店さし
目出まるはるめ　賤う童の野
龍宮の鐘のろうや　花ろう
振舞ろうちろう　お盛
盛振ろ立ばくかりろ花そ春
たてこ好とあく宋さ　和見ろう
草あびとうやまきるろ他のようろう
安見ちかろをかこれひらく草も牡丹と
扇ろうて響をるのは貴ろろろ
る位よまーいるものの和歌のようなり
けるろう
書の痕もおそらく　花盛
春雨の八郎よ　迷ひ　陰のや
ろうんろいろく　花
燒皇基安當なり　や花う哉

西の宮奉納　千早振　章
花を崎神の章
我ら崎のさろく章
ろせろあるをろ

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67

ガラス使用

あやめふく女房のやねうらむ
あやめふく 粽の葉 や 彩の 着 物
ふきの葉も 其 つくし
立さいくちまきの中やそなれる
さみだれのかくる 天 象 玉 や 五月雨
燈 双 燈 く 天 象 玉 や 五月雨
さみだれやぬれ 燈 あるる 草 の 庵
紅の緒の 梅 うつろうや 五月雨
天 王 寺 を 誰 う 建 うそる 傘 の 花
青 瓜 の 高 葉 よるさよ
病中吟
菜萩のまがや 土用のうぐいむ 那
伝 ささん ちをおくや ゆるを 時
夏 痩 の 当 主 を つ 芽 る
ゆるめのさみだれ 鬢 な や ゆるを
親 き よ 風 つきむけて 回 捜 う 那
めりうよ 蛛 の 出 立 や 四 ろ 時

大 名 の 夏 の 狂
ろ 蛛 をくうう や 四 ろ 歌
八 橋 よ 十 か 七 ふとりる 四 ろ 小
ろくる 見 をさ 田 ろ ろ こ 那
ろ の の て 未 扱 の 那 を う 那
笛 吹 乃 な 扱 の 那 を う 那
扱 を 史 や 書 お よ む せ る 哨 の 音
夕 立 よ 種 な こ う う 大 根 畠
夕 立 や ゆ ろ ろ う う 気 の 雨 や ろ う
夕 立 の 雲 や 多 大 根 大 部 首 根 法 部
夕 立 や 多 な け ろ 仏 出 蕎 薄 池
宝 ろ 晒 土 用 の 中 の さ 那 う ろ
大 仏 や 捜 て 土 用 干
土 用 蝉 服 あ 汗 て 土 用 干
か ろ ろ 仏 さ 蝉 や ろ 乃 雲
狼 の よ う 仏 さ 蝉 や ろ う 麻 の 中
さ う し 着 て 小 傍 を 焼 し く つ 玉 葉

あつくめをして久米仙
陸奥大納言はあまりよ肥ふくてうへの間止仕
をとゝのへられ九郷よりて宇治の格子
来の物語こゝろまでこれうつ
夏衆くく肥る人乃九郷
押あつて仮うみ顔や牧士の祐
世くの役めハ五老井の亭よまる庭根の池よりつゝ
盃盤の星ありうとくてん
悼の声ゝ井の亭よまる庭根の池よりつゝ
扇乃星ありうとくてん
信濃坂ハ五老井の亭よまる庭根の池よりつゝ
天井ゝ井の亭よまる庭根の池よりつゝ
うくんをくりて暑ゝ
狗漬の仮ゝ酔くるあつくうゝ
大事を役めて下略

六月ゝ旬作なすや 入食の数
色うさむ袋をあつて るみ一の形
あつまる弁頌しる水こゝろ
仮名の指てつまむや新定菓子
亟遊ゝ銭別
ゑ空や花のあ坊の形うう
ゑ痒のゆきハ首乃誉
須田町のうつあ坊の秋
新名をなうめて今形の秋
上野のちくくくて秋くあ
七夕や車仲うまのうあのう
七ついうう老人号や四一条
跡よゝ陣のゝ星うう
名を称あのゝ星うう
星会をすこのゝ
洋会や日ゝ
天文者の天
ま廻や引

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

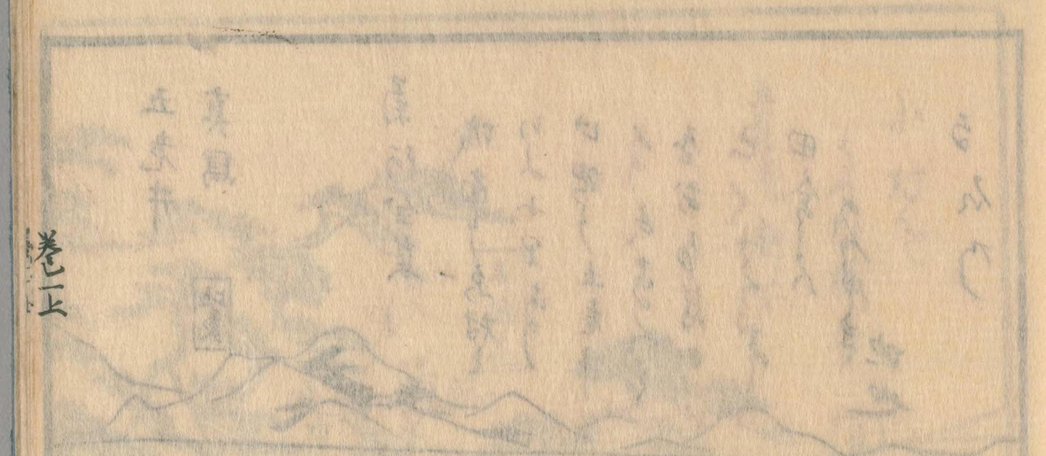
くくもそせ我ふひくくもの声
亍鮭の眼へかもむくくるいくくの事
まきおやいろくくむしの声
わむしのやうやお食のの柔疵也篇
八郎の節句ふうやたのやう沙
西瓜ふとまと斜うみを月
今日や日ぞまる三保のの
今日や残るう雲も
芋をまる鎗の中返月おお
いつの秋ふ李由る行
芋のまの今日を行
黄雞ふ唐のまくくふ
奶包ふうおむさしの
紳の帝旭包製活う
今日やふ侍の月
海くくと琵琶をかくて月
乙姫やめろくくまの月
今日のうやの二見ほ

今日や昨の雨上
今日や六条徳の
今日や庵心の芋
活さくく東坡う八
ふ行くくる晩行て
今日を吟明
一天雲ふ晴
明日や一声くる
くるうるの月
時雪姫とるし
浪鄙ふ老まう
ふ会せん日の
石ふとうくく入
かくふに頬
酸のくく嫁
行くめる川や
竹の中ふ
悠門ふ鎖の

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

五老井
真寫

菊阿全集

城南より糸村と
いふ小里あり
山地より五老井
あり民、あつまつて
至おもひの
ふくさくなる
田舎人
のうるしき地也
るなり

比良

三上山

五老井

小村を
うつむ梅ぶ

五老尾 新六

石楠花

許六墓

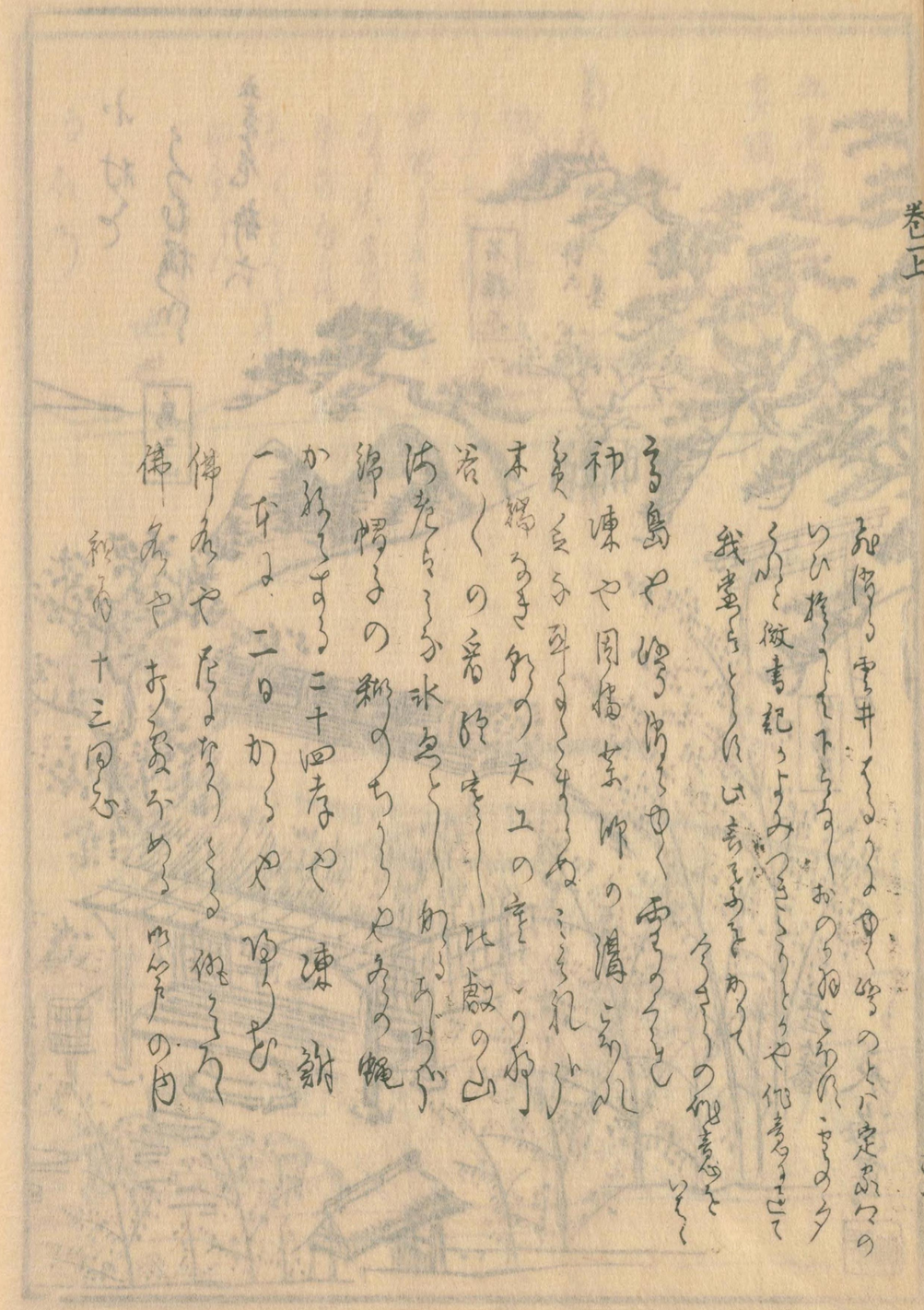
鳥ノ山

竹鳥居

彦藩
永海寫

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67

ガラス使用



雪
月
花

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』 請求記号 862-67
ガラス使用

862
5本
67

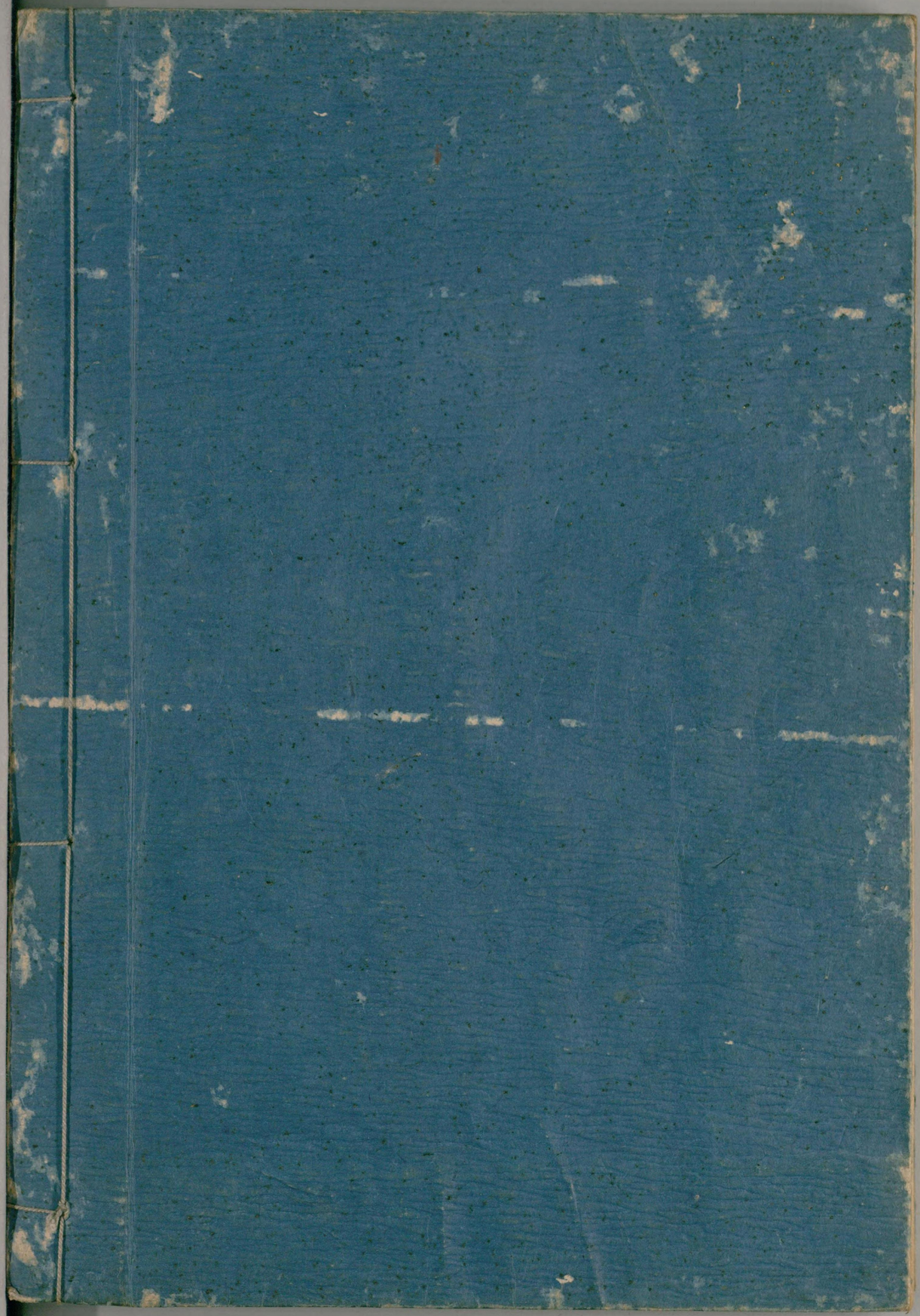
14232

風俗文選犬註解 巻之壹上 巻

書肆

京都 三條通弁座町 出雲寺文治郎
大坂 心齋橋通博労町 河内屋茂兵衛
江刕彦根 上町 同 白壁町 小川九兵衛
東都日本橋通壹丁目 同 戝丁目 本屋太兵衛
同 芝 神明前 須原屋茂兵衛
日本橋通戝丁目 山城屋佐兵衛
本石町 十軒店 岡田屋嘉七
淺草茅町戝丁目 小林新兵衛
芝 神明前 英大助
大傳馬町戝丁目 須原屋伊八
横山町 三丁目 和泉屋市兵衛
同 壹丁目 丁子屋平兵衛
馬喰町 戝丁目 和泉屋金右衛門
出雲寺萬治郎
西村屋與八

国立国会図書館　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『風俗文選犬註解』　請求記号 862-67

ガラス使用